



PRESS RELEASE

For immediate release
pr@niseiweek.org

For more information:
Diane Tanaka 310.962.2698

2018年二世週日本祭りグランド・パレード

第78回パレードは、グランド・マーシャルに選ばれたロサンゼルス郡上位裁判所裁判官であり、勲章授章のベトナム戦争退役軍人でコミュニティリーダーのビンセント・オカモト氏、ならびにパレード・マーシャルに選ばれた喜劇俳優でコミュニティボランティアのアロン・タカハシ氏にけん引されます。

ロサンゼルス-2018年7月15日-二世週財団は、どの年代の人も無料で楽しめる数々の文化活動のある第78回の夏のイベントを開催します。二世週日本祭りは、第一週のイベントの一つとしてグランド・パレードを呼びものとし、8月12日日曜日午後4時からリトル東京の道路を通ります。パレードは2018年のグランド・マーシャルに選ばれたロサンゼルス郡上位裁判所裁判官であり、勲章授章のベトナム戦争退役軍人でコミュニティリーダーのビンセント・オカモト氏、ならびにパレード・マーシャルに選ばれた喜劇俳優で長年のコミュニティボランティアのアロン・タカハシ氏にけん引されます。パレードの列は、セントラル・アベニューから始まり、二番街を西に進行し、サンペドロ・ストリートを北に曲がって一番街を東に曲がり、そして、セントラル・アベニューで南に曲がったところで終わります。

二世週グランド・パレードは伝統的な日本の太鼓、地元のコミュニティグループ、高校、選出公職者やロサンゼルス姉妹都市である名古屋市からの代表団、そして、2018年新たに優勝、入賞した二世週クイーンとコートが紹介されます。

グランド・マーシャルー ビンセント・オカモト氏

ビンセント・H・オカモト氏は日本からの移民の第10子、7番目の男子として第二次世界大戦中に連邦収容所で生まれました。6人の兄は全員が米軍に従事しました。長兄、次兄は第二次世界大戦中に米陸軍第442連隊戦闘部隊に入りヨーロッパで戦いました。第442連隊戦闘部隊とは、人種差別的に隔離された日系アメリカ人の部隊で、その規模と従事期間にしては米軍史上最も勲章を受けることになった部隊です。他にも朝鮮戦争で海兵隊員に志願したあにがいます。

オカモト氏は、南カリフォルニア大学国際関係学部を1967年に卒業しました。彼は、カリフォルニア大学ロサンゼルス校予備役将校訓練団歩兵隊の少尉に任命されました。そこで彼は、士官候補生大佐の地位まで昇級し、日系アメリカ人で初めて Bruin 突撃部隊を指揮し、また、1967年には優秀な軍卒業生に指名されました。

彼は、ジョージア州フォートベニングで士官歩兵学校、歩兵連隊学校、空挺部隊トレーニングを修了し、南ベトナム共和国での任務に志願する前、第 82 空挺部隊に従事しました。

ベトナムで、彼は歩兵小隊のリーダー、小隊の指揮者、情報部員として従事しました。3 度負傷し、高い戦場での勇敢さを称えるものでこの国の二番目に位の高い賞殊勲十字章を含む 14 の戦闘勲章を受け取りました。その他の勲章には、銀星章、青銅星章、ベトナム武勇十字章、陸軍称揚章と 3 つのパープルハート章が含まれます。

3 年間の現役勤務の後、オカモト氏は大佐の位で陸軍を去りました。彼は南カリフォルニア大学法学部に通い、個人営業に入る前にロサンゼルス郡地方検事副官として 5 年間務めました。オカモト氏はコミュニティにおいても活発で、様々な役員会や行政機関に従事してきました。Gardena 市議会議員に選出され、日系アメリカ人弁護士教会の創設役員であり、カリフォルニア退役軍人局委員会の役員会としても従事しました。

さらに、オカモト氏は、カリフォルニア・ブルークロス社の予算および財政委員会の委員長でロサンゼルス郡ベトナム退役軍人局役員会の役員でした。2000 年には、日本文化機関にて「今年の人」に選出されました。

2002 年、知事からカリフォルニア上位裁判所に指名されました。オカモト判事は 2006 年 UCLA 予備役将校訓練団卒業退役軍人に指定されました。2007 年には、名誉にも第二次世界大戦後最初の日系アメリカ人陸軍「突撃隊員の殿堂」に入りました。

2016 年、オカモト判事はワシントン DC のアメリカ退役軍人センターから「Hero of America (アメリカの英雄)」と名付けられました。2017 年にはケン・バーンズのベトナム戦争についてのドキュメンタリーに取り上げられました。彼は、ベトナム戦争についての小説、「Wolfhound Samurai (和訳: 狼犬サムライ)」を書き、勲章受章者の日系アメリカ人ヒロシ・ハーシー・ミヤムラの伝記、「Forged in Fire (フォージド・イン・ファイア)」を執筆しました。カリフォルニア州トーランス在住のオカモト判事

パレード・マーシャル・アーロン・高橋氏

アーロン高橋氏は有名なコメディアン。元インストラクター、ライター、主演俳優、現在はアジア系初の即興コメディ・グループであるコールド・トーフの取締役でもあり、ハリウッドの ACME コメディ劇場でのメイン・メンバー、イースト・ウエスト・プレイヤー、GIC バーバンク、フリーモント・センター・シアターなど、多数の会場でステージ出演している。

テレビへの出演も多く、CBS、NBC、ABC、FOX、コメディ・セントラル、コメディ・コモンズ等の人気番組にも多く出演、コナン・オブライエンの深夜番組のコメディスケッチにも、レギュラー出演、その他 Netflix、TBS、IFC、そして、数々の賞を受賞した USA ネットワークシリーズの「M ロボット」でも有名です。

高橋氏は助演俳優としてジム・キャリーの「Yes Man (2008)」、「Jean-Claude Van Damme」の「ジャングルへようこそ (2013)」、Kevin Hart の「The Wedding Ringer (2015)」などのコメディ・ブロックバスターと言われる作品に主演俳優として活躍している。また、ジャスティン・リン監督の著名なアジア系アメリカ人犯罪ドラマ「Better Luck Tomorrow (2002)」にも出演した。

さらに、高橋氏はトヨタ、ダンキン・ドーナツ、ウェンディーズ、マクドナルド、スナップル、ステート・ファーム、Eシユアンス、Eペイツのマルチ・スポットを含む、ほぼ 100 のコマーシャルに登場するコマーシャル俳優としても、大成功したことは間違いない。彼は、時々、ロサンゼルス地域でのコマーシャルのオーディションを受ける人を対象に技術ワークショップを持って教えてもいる。

高橋氏はガーデナ、トーランス・エリアで生まれ育った。彼は Eagle Scout であり、そして南カリフォルニア大学の卒業生である。彼は日系四世として、そのヘリテージを大変誇りに思っている。彼の曾祖父は 1896 年にサンフランシスコに上陸し、1906 年のサンフランシスコ地震と 1929 年の株式市場クラッシュの両方で生き残った。第二次世界大戦中、高橋の父親の家族はトゥール・レークの分離センターとその後ハート・マウンテン移転センターに収容され、母親の家族はユタ州のソルトレイクシティに移住し、当時の日系人に同情的な耕作農家の一家と一緒に生活した。

タムリン・トミタやロドニー・カゲヤマといった、日系人の芸能人達からの刺激を受け、いつでも時間の許す限り、日系商工会議所 (JCCSC)、アジア・プロフェッショナル・エクスチェンジ (APEX)、アジア太平洋芸術連合 (CAPE)、コラボレーション、ストレートアウト・リトル東京 (寺崎武道館)、LAチャイナタウン爆竹ラン/ウォーク&バイク・ライド、USCアジア太平洋同窓会、UCLAアジア太平洋奨学生、マイウィッシュリスト財団、ゴーフォーブローック教育センター等へも頻繁に顔を出す。もちろん、二世週祭に顔を出す事は忘れない。

高橋氏の二世週祭への関与は、古くは 1990 年代初頭、二世週祭のカーニバルで、フラタニティーグループでのテリヤキ・チキンの販売をした時から始まる。2002 年より、二世週祭戴冠式にステージ出演、舞台裏サポートなどで毎年活躍している。また、2005 年初めに二世週祭の公式マスコットである犬のアキを有名にしたことでも有名。2007 年には高橋氏は二世週祭ベビーショーの審査員として参加し、翌年から、司会任務を引き継ぎ、今日でも、このベビーショーの司会を続けている。その他、二世週祭ホスピタリティ委員会主催のルアウ、七夕祭り、カラオケコンテストの司会、そしてグランドパレードのアナウンサーとしても活躍している。

###